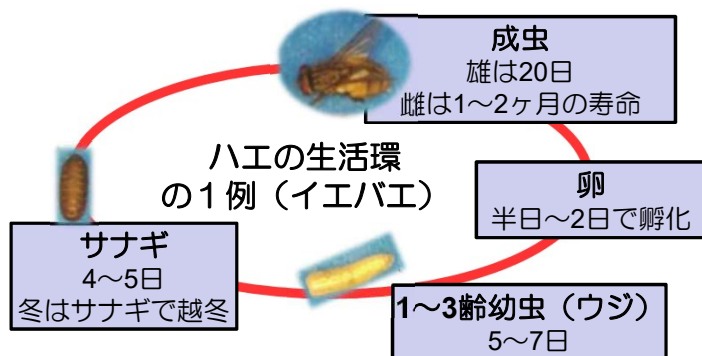




ハエ対策に取り組みましょう

ハエの発生は6～7月にピークを迎え、8月に若干減少し、秋口に再び増加します。ハエは家畜に対し不快感やストレスを与えて生産性を低下させるだけでなく、疾病を伝播するなど家畜防疫の観点からも農場に不利益をもたらすことから、防除することが重要となります。



ハエ対策は「**環境対策**」が基本です。
「**薬剤による殺虫**」とバランス良く実施しましょう。

1. 環境対策

- ◆ ハエは湿った糞や飼料に産卵することから。早めに糞を取り除き堆肥舎で発酵等、適正な処理に加え、食べ残した飼料は取り除き、飼槽からこぼれたものも、こまめに掃除しましょう。給水設備に水漏れがある場合には、ハエの発生源となるため、小まめな修理を行いましょう。
- ◆ 堆肥の処理は適切な水分調節と切り返しが重要です。良好な発酵処理として、温度40℃以上、水分50%以下の条件でふ化率が激減します。全体的に発酵温度をあげるため、**1週間以内の間隔**で切り返しを行うことが必要です。

2. 薬剤による殺虫

- ◆ 一般に幼虫は成虫の4倍存在すると言われます。薬剤を使用する場合は、**幼虫対策から取り組み**、発生源を叩くとより効率的です。
- ◆ 同じ種類の薬剤を長期間使用し続けるとハエが抵抗性を持つてきます。適宜異なる種類の薬剤に交換しましょう。
- ◆ 薬剤の管理を徹底し、飼料への混入には十分に注意しましょう。

令和6年度悪性家畜伝染病防疫対策研修会が開催されました

令和6年（2024年）4月25日、天草広域本部において悪性家畜伝染病防疫対策研修会が開催されました。

当所からは、高病原性鳥インフルエンザや豚熱を含めた悪性家畜伝染病の国内外の発生状況や防疫作業内容について説明を行いました。

また、昨年度の熊本県鳥インフルエンザ防疫対策マニュアルの改訂内容を踏まえた発生時の対応についての説明が行われました。

令和5年度熊本県鳥インフルエンザ防疫対策マニュアル改訂に伴う変更点

- ①健康観察方法の変更
- ②支援センターの基本的なレイアウトの変更
- ③支援センターにおける受付、バス誘導係の新設

本研修会は、人事異動後でも速やかな初動防疫体制を整えることを目的に、天草広域本部職員、市町及び畜産関係者等を対象に毎年開催されています。

家畜伝染病の発生を未然に防ぐことは一番大事ですが、万が一発生した場合には、迅速な初動防疫によるまん延防止が重要です。県職員のみならず畜産関係者の方々にも御協力いただくことがありますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



海外悪性伝染病発生状況

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）	H5N1	台湾	家きん（3件）	3月～4月
アフリカ豚熱		韓国	野生いのしし（148件）	3月下旬～4月

令和6年(2024年)5月1日現在

通報

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。
天草家畜保健衛生所 電話番号 0969-22-3668

毎月20日は「くまもと家畜防疫の日」



くまもと県畜産振興課